

市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



Contents

2018年6月
第32号

- ▶ 病院長からのご挨拶
- ▶ 青空を望む 患者さんに優しい CT検査室
- ▶ 最新の消化器がん 薬物療法について
- ▶ 禁煙外来
- ▶ 子どもの低身長について
- ▶ 皮膚科外来について
- ▶ 院内イベント情報
- ▶ ～急性・重症患者看護専門看護師の活動について～

診療科紹介 救命救急センター

病院長からのご挨拶

日頃より、大阪市立大学医学部附属病院に格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。

当院は、大阪市内唯一の大学病院であり、地域医療における中核病院として、高度な総合医療機関の役割を担っています。厚生労働省より、地域がん診療連携拠点病院として指定を受けており、がんの新たな診断法・治療法の開発を推進しています。

当院の理念としては、市民の健康に寄与する質の高い医療を提供すること、こころ豊かで信頼される医療人を育成すること、医療の進歩にたゆまぬ努力を続けること、の3点を掲げております。これは、大阪市立大学医学部の建学精神である「智・仁・勇」にもとづくものです。

37の診療科、972の病床を有し（平成30年4月現在）、医師・看護師・コメディカル等、様々な職種が、患者さまを多角的に支援できるよう日々業務に励んでいます。また、入退院支援センターやがん相談支援センター等、環境づくりにも力を入れております。

そして、健康寿命の延伸を望む声が高くなっている今日、大学病院の持つ専門性の高い人材と高度先進医療を活かした健診及び診療を、先端予防医療部附属クリニックMedCity21にて行なっております。

今後もみなさまのお気持ちに寄り添える病院であるよう努めてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



(大阪市立大学医学部附属病院 病院長 平田一人)

青空を望む 患者さんに優しいCT検査室

「市大で検査してよかった」…この言葉をお聞きしたくて、優しい空間で最大の検出器幅を持つ高性能なCT（コンピューテッド トモグラフィー）装置を導入しました。この装置は320列の検出器を備え、16cmの撮影範囲を1回転、わずか0.275秒で撮影することができます。高速で広範囲な撮影が可能となったことで、呼吸停止の負担だけでなく、造影剤の使用量、放射線の被ばくなども、いっそう低減できるようになりました。特に広い撮影範囲を活かした脳や心臓の検査では、装置導入の効果を強く感じています。



新しいCT検査室

さらに今回、検査室の環境にも工夫を凝らしました。検査室の天井に青空を望むことができるため、リラックスして検査を受けていただけると考えています。新しい装置の導入により、CT検査室は設備と環境の両面から、さらに患者さまに優しい空間となりました。「市大で検査してよかった」と心から感じていただけるよう、患者さまに優しいCT検査を目指して引き続き取り組んでまいります。検査や装置についてご質問などございましたら、なんなりと中央放射線部スタッフにお声かけください。



冠動脈CT 脳血管CT
(心臓バイパスの手術後) (赤:動脈,青:静脈)

(中央放射線部 市田隆雄)

最新の消化器がん 薬物療法について



これまでのがんの治療は、手術、放射線療法、化学療法が3本柱と呼ばれていました。これらの治療法は、直接がんを標的にした治療法です。

一方、最近、話題になっているがん免疫療法は薬が直接がん細胞を攻撃するものでなく、もともと体内に備わっている患者さま自身の免疫の力を利用して、がん細胞への攻撃力を高める治療法です。悪性黒色腫や血液のがん、肺がん等に引き続き、昨年ようやく消化器領域の胃がんに適応になりガイドラインにも掲載されています。他のがんと比較したら有効性は劣りますが、これまで様々な化学療法が終了し、治療法が無くなった患者さまにとっては待ちに待った治療法です。

また、これから治療を受ける患者さまにとっても治療の選択肢が増えたこととなります。その他の消化器がんに関しては、特異的な遺伝子変異を持つ大腸がんの患者さまにも年内には適応になる予定です。

薬の効くしくみを考えると、従来の化学療法に認められた食欲不振や嘔気等の副作用は少ない治療法と思われませんが、間質性肺炎や劇症型糖尿病、重度の下痢等を引き起こすこともあり、使用に関しては十分な体制が整っている大学病院等での治療に限定されています。

詳細な適応等については、当科、および消化器外科にぜひご相談下さい。

(消化器内科 平良高一)



禁煙外来



タバコの煙には5000種類以上の化学物質、約200種類の有害物質、約70種類の発がん物質が含まれており、悪性腫瘍、循環器疾患、脳血管疾患、呼吸器疾患をはじめとする様々な疾患の発症、増悪に関与しています。

タバコに含まれる物質の中で、ニコチンは依存性物質と規定されており、使用者に依存症を発症させる頻度は、ヘロイン、コカイン、アルコールを上回ります。したがって、やめようと思っても喫煙をつづけてしまうのは、「やめる意思が弱いから」ではなく、ニコチン依存症という病気になっているためです。

私どもの禁煙外来では、患者さまご自身の、喫煙という習慣を変えようとする勇気ある行動をご支援する体制を整えて、診療を行っています。また、たとえ一度失敗しても、あきらめず何度でも禁煙に挑戦いただき、そのご支援を行っていく体制も整えています。

現在は大阪市立大学医学部附属病院にご通院中の喫煙者の方のみが対象です。ご通院中の喫煙者の方で、禁煙をしようと思われる方は、主治医の先生とご相談いただき、是非禁煙外来を受診してください。

(総合診療センター)



子どもの低身長について

「子どもの背が低い」というご相談を、当院小児科の内分泌外来で多く頂きます。乳幼児健診や学校健診からもよくご紹介頂きます。病気が見つかることもあります。病気でなくても背が高い人もいれば、低い人もいます。成長ホルモンが足りない人は注射が必要です。注射器のパッケージは、メーカーにて工夫してくれていて、楽しいイラストが描かれていますよ(写真)。サッカーのメッシ選手も注射したことで有名ですね。でも成長ホルモンが足りない人はほんの一握りです。



子どもの身長は80%は両親の遺伝で決まります。また朝食を食べない、3度の食事は興味がない、おやつは大好き、という食習慣の子どもの低身長になることが多いようです。また昔から「寝る子は育つ」と言うように、成長ホルモンはぐっすり眠る間に分泌されます。1日の推奨睡眠時間は大人では7-9時間程度、子どもは幼稚園児で10-13時間、小学生で9-11時間、中高生で8-10時間ぐらいです。皆様の周りのお子様は十分に睡眠がとれていますか？

戦後伸びていた日本人の平均身長は最近縮んでいるとか。塾で忙しかったり、ゲームやスマホが普及したり、便利で選択肢が増えた現代社会、子どもたちの健やかな生活を守る私たち大人の役割は重要ですね。

(小児科)

平成30年6月1日より、小児科の受付方法が変更となります。詳しくは当院ホームページをご覧ください。

皮膚科外来について



皮膚科外来では平日午前中に初診外来、月～木の午前中に皮膚科一般外来を行っています。また昨年度より専門外来を新設し充実を図りました。火曜午後は乾癬外来、水疱症外来、水曜日にアレルギー外来、木曜午後にアトピー外来、金曜日に皮膚外科外来を行っています。

専門外来では高い専門性を求められる疾患を治療しております。乾癬外来、アトピー外来では従来から行っていた外用療法、内服療法から、近年発売となったバイオ製剤も導入し、重症度に応じて治療します。アレルギー外来では種々のアレルギー検査(パッチテスト、プリックテスト、血液検査など)も併用し原因検索から治療までを行います。

初診で来られた際から必要な検査を行い、適切な治療を選択できるよう努めて参ります。皮膚疾患でお困りの際は一度ご相談ください。

(皮膚科)

院内 イベント情報



医学部オーケストラ部による

コンサート

日時 平成30年7月13日(金)
時間 17:00~17:45
場所 病院5階講堂

夏祭り

第12回マーブルフェスタ

日時 平成30年8月17日(金)
時間 13:30~17:00
場所 病院5階講堂

相愛大学による

第69回院内コンサート

日時 平成30年8月9日(木)
時間 15:45~16:30
場所 病院5階講堂

相愛大学による

第70回院内コンサート

日時 平成30年10月25日(木)
時間 15:45~16:30
場所 病院5階講堂

当センターは1993年に救急部として発足し、2010年に救命救急センターとして認可を受けた大阪市内で唯一の大学病院の救命救急センターです。

救急診療や集中治療、外傷診療などの専門スタッフを擁し、主に救急車で搬送される重篤な患者さまを24時間体制で受け入れ、診療にあたっています。例えば、突然心停止となった場合や、交通事故で重傷の場合、脳卒中・心筋梗塞・重篤な感染症など重症疾患の場合が対象となります(写真上)。

また、災害医療活動としてDMATという災害医療チームを被災地に派遣したり、2017年からはドクターカーを用いて重篤な患者さまに少しでも早く医療を開始できるよう、病院に搬送される前から救急隊とともに現場での活動も開始しています(写真下)。

地域の皆様のみならず、大阪の皆様により一層質の高い救急医療を提供すべく、当センター全員で日々研鑽しています。



救急初期診療室



ドクターカーとスタッフ一同

シリーズ

第8回

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

～急性・重症患者看護専門看護師の活動について～

今号では認定看護師と共に活躍している

『急性・重症患者看護専門看護師』についてご紹介します

主な活動は、救命救急センターやICU(集中治療室)・CCU(冠疾患集中治療室)などで、病状が急激に悪化した患者さまや、人工呼吸器や人工透析などの医療機器や循環作動薬を連続して使用しなければならない呼吸・循環が不安定な状態の患者さまへの看護を中心に行っています。具体的には、患者さまの病態の安定に向け医師の治療方針に沿った看護を計画・実践し、看護師に対して教育を行います。また、容体が急変した患者さまに代わってご家族が治療の内容や方法を決定する際に、ご家族が患者さまの意思を尊重して決断できるよう支援します。

また、来る超高齢化社会に向けて、厚生労働省では、医師の包括的指示(手順書)に従って一定の診療の補助行為(特定行為)を実施することのできる看護師の養成を開始しています。当院は看護師の特定行為研修機関として



看護師特定行為研修の様子

厚生労働大臣から指定を受け、昨年度から特定行為を実施できる看護師養成を行っています。急性・重症患者看護専門看護師も第1期生として研修を修了し、呼吸器関連などに係る特定行為が実施できる専門看護師として、患者さまができるだけ早く社会に復帰し、地域で継続して生活を送ることができるよう努めています。

急性・重症患者看護専門看護師 阿部美佐子

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
 ※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
 電話：(06)6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前9時～午前10時30分
 休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日